

会 議 議 事 録

1 会議名	令和５年度 第１回阿賀町総合計画審議会
2 開催日時	令和５年９月２６日（火）午後２時００分（終了：午後４時３０分）
3 開催場所	阿賀町公民館講堂
4 出席者名	箕口委員、横山委員、原田委員、原委員、伊藤委員、田中委員、齋藤望委員、 小林委員、猪俣委員、西田委員、齋藤真由美委員、増川委員、清田委員、 石川委員
5 議事	１） 諮問 ２） 第２次阿賀町総合計画後期基本計画（令和４年度）の検証について ３） 地方創生関連交付金事業の効果検証について ４） 総合計画の見直しについて ５） その他
6 審議の内容	
1.開会 事務局	<p>それでは定刻になりましたので、これより令和５年度第１回阿賀町総合計画審議会を開催します。私、事務局の町の総務課長をしております野村と申します。よろしくお願いいたします。尚、本日の協議会につきましては、議事録作成のため録音させていただきますので、ご了承いただきたいと思います。</p>
2.委嘱状交付	<p>はじめに、人事異動等によりまして新任となられました４名の委員の皆様がおられます。町長の方から委嘱状を交付させていただきます。</p> <p>委嘱状につきましては代表受領とさせていただき、他の新任の委員につきましては、あらかじめお席の方に委嘱状を配付させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。それでは代表いたしまして、第四北越銀行津川支店 支店長の田中豊様に前の方にお越しいただきたいと思います。</p> <p>（委嘱状交付）</p>
事務局	<p>田中様、ありがとうございました。ご出席の皆様のご紹介につきましては、時間の都合もございますので、大変恐縮ではございますがお手元の名簿、席次表をもって紹介にかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>尚、阿賀町総合計画審議会条例第７条第２項の規定に基づき、委員の半数以上の出席を賜っておりますので、会議が成立しますことをご報告申し上げます。それでは次第の３．町長よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>（町長あいさつ）</p>
3.町長あいさつ	<p>皆さんこんにちは。町長の神田でございます。本日は皆様極めてご多忙の折、こうして令和５年度第１回阿賀町総合計画審議会にご出席を賜りまして誠にあ</p>

3.町長あいさつ	<p>りがとうございます。人口の減少が続いております。様々な課題がこの阿賀町にあるわけでございますけれども、しっかりとみんなでまちづくりを進めていくにあたりまして、この総合計画はまさに基本の基本の町の計画でございます。現在、令和2年度からの第2次総合計画の後期計画をスタートしております、昨年、令和4年度で中間地点、今はすでに令和5年度、残りは来年1年となつてきているわけでございますが、ここは色んなことを考えながら積極的にまちづくりを進めていかなければならないというふうな思いでございます、総合計画から飛び出たような動きもさせていただいているところでございますけれども、国もDX、デジタル化の推進というところも柱にしながらまたSDGs、環境や人々の生活であり、そうしたところ、国の方針に沿いながらいろんな分野で積極的なものを取り組んでいくような思いでありまして、そこにはやはり「豊かな自然」というところが阿賀町の基本構想でもありますので、この自然の豊かさも活用しながら、町の活性化を図っていききたいというふうに思っているところでありますし、農林業、本当にここも様々な課題のなかで皆さんに取り組んでいただいているところでありますが、こうした一次産業が阿賀町の基本であるという認識でありますので、米を作っていただくにも有害鳥獣であったり米価の問題であったり、今年のこの暑い夏、日本一暑い阿賀町になったこともありまして、様々な条件の変化もあるわけでございますけれども、しっかりと持続可能な産業を新たに創っていかねばならないというふうに思っております。新聞報道にもありますが林業、この森林資源を活用しながら、また、阿賀野川をはじめそれぞれの豊かな支流、水、この辺も活用しながらより活性化するような策を取り組んでいききたいというところで検討も行っているところでございます。</p> <p>また、生まれてくる子供たちが30人を下回るような極めて少ない状況でございます。平成13年度は120人子どもが生まれていただけでございますけれども、それが100人をきり、50人をきり、今は30人をきってしまうような極めて厳しい状況。ここをしっかりと見つめながら子育てであり、教育であり、そして阿賀町以外のいわゆる移住者、そうした皆さんもこの阿賀町に呼び込みながらみんなの力で町の活性化を図っていききたいというふうな強い思いを持っているところでございます。今般、今までの取組の検証を委員の皆様をお願いをしながら、来年の最終年度へ向けて、今申し上げたようなところも一部見直しが必要であると思っております。年末に来年度に向けた予算編成を行っていくところでもありますので、ここでいただく皆さんのご意見をしっかりと反映させていかなければならないというふうな思いであります。どうか皆様方から忌憚のない意見をそれぞれの分野から出していただくなかでよろしくをお願いを申し上げまして開会のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。</p>
----------	---

<p>4.議事 1)諮問</p>	<p>(配付資料の確認)</p> <p>それではこれより議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、会長よりお願いいたします。</p>
<p>会長(箕口委員)</p>	<p>会長を仰せつかっております箕口です。なかなかこういった場で発言をすることはすごく緊張されていると思いますが、実は私もとても緊張しております。緊張しているもの同士ですので是非忌憚のない意見を、皆さんの頭にふと思いついたことを正直に発言していただけると町の発展、何かを変えていくきっかけになるのではないかと思いますので、限られた時間ではございますが、ご協力をお願いします。</p> <p>それではこれより議事に移らせていただきますが1つ目は諮問について、事務局よりお願いいたします。</p> <p>(町長から会長へ諮問)</p> <p>ありがとうございました。町長につきましては、ここで退席をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>(町長退席)</p>
<p>2)総合計画の 検証</p>	<p>2)総合計画の検証につきまして事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局より資料1～資料3、資料1追加資料に基づき説明)</p>
<p>会長(箕口委員)</p>	<p>ありがとうございました。ただいま議事についてご説明がありました。皆様をお願いしたいのは、8つの基本目標ごとに分けて進めていければと考えております。よろしくお願いいたします。区切って議論を進める前に、1ページと2ページにかけて目的と検証の考え方について説明がありましたが、このところで皆さんからご質問やご意見などがあればお受けしたいと思います。今日の方法論のところ、これから時間をかけてどの様な議論をしていこうかというプラットフォームをみんなで共通のものにしていこうということですけどもいかがでしょうか。</p> <p>総合計画も折り返し地点を過ぎたということで、総合計画に沿った取り組みがどこまで進んでいるのか、何ができなかったのかという確認と特にできなかった部分についてはどうすればいいのかということについて、皆様から様々なアイデアや意見を出してもらうことがこの場での大きな目標であると考えております。併せて次の総合計画策定といったときにこういったものを考えていか</p>

会長（箕口委員）	<p>なければならぬということになります、この場ではそのような理解で皆さんと話し合いをしていこうと思います。</p> <p>P D C A サイクルを回す、それと K P I という数値目標があって、数値目標にきちんと達しているかどうかということでご報告をいただきました。前回の議論のなかで数値目標が大切でそれを達成することがもちろん大切だけれども、本当に数値目標だけでいいのか。もう少し考え方であったり、数値目標には載ってこなかったけどこんな成果があったとか駄目だったとかそういった課題を出して情報共有をしていくということもありました。そういう意味では幅広く考えて下さって様々なご意見をいただければと思います。事務局は出してくださった意見は真摯に受け止めて、出来る出来ないは別として色々考えて下さるはずですので、是非ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>それでは具体的に検証結果の概要について基本目標ごとに見ていきたいと思っています。基本目標 1 については概ね現状維持で進んでいるということですが、意見があれば皆さんからお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。「豊かな自然のなかで育む結婚・出産・子育て環境を充実する」ということで、これは町長のごあいさつのなかでもありましたけれども人口減少という日本全国を覆っている暗雲ともいえますけれども、それを何とかして克服していくということでも大切な施策にあたる部分でありますけれどもいかがでしょうか。</p>
清田委員	<p>「児童クラブの入会率」が策定時より下がっている原因は何なのかということと、「給食材料費に係る地場産米・野菜等購入費の割合」が下がってきているのは、努力しているのに何か支障になっていることがあるのか、その2点について伺いたいと思います。</p>
事務局	<p>児童クラブの入会率が令和3年度、4年度と数値が下がっているのは、コロナの影響があり、入会自体を控える保護者も一定数いると聞いているのでその影響が大きいのではないかと思います。全体的な数値としては、子どもの数が減っているのも要因ではないかと考えます。保護者が直接見れないから児童クラブに、というかたちですけれどもそうではないという家庭もあるなかで全体的な数値が下がってきているというところ、やはりコロナの影響が大きいのではないかと思います。給食材料の地場産の割合については、給食で使おうとするときに、ある程度の量とタイミングをきちんと決めないと献立が立てにくいというところがあって、積極的に進めてはいるんだけどなかなか進まないのが現状だと思います。</p>
会長（箕口委員）	<p>8つの基本目標は全て独立しているというわけではなくて、関わり合いながら成立しているものだと思うんですけれども、給食のお話しは一次産業の農業に関わる部分と強く関係しています。地元のものを使うことによって、それを食べた</p>

会長（箕口委員）	生徒が地元っていいなと思えるそういった繋がりががありますので、皆さんのふるさとの物なんだよというPRをしていく事も大切なのかなと思います。
齋藤望委員	基本目標1の目標達成割合が47.1%で高いと感覚的に感じたが、人口減少は進んでいるという話もあります。こどもが少ない人口減少というのがどうすればいいのかなと事務局はどの様に感じているか聞いたかったのですがどうでしょうか。
事務局	出生数が年間30人をきる危機的な状況ということになっています。こどもが減少する原因は様々ありますけれども、生産年齢人口が減少している、もしくは婚姻率が低下している、独身者の数が増加している。少子化対策を何とかしていかなくは町が持続していかないということで、少子化対策検討会議を設置しまして、今後どの様な少子化対策を図っていくのか、克服できるのか、単純に経費の負担を軽減していくだけではなく、就労環境も含めて子育てしやすい環境をつくり、生産年齢人口を増やしていく事を重点的に行うことも含めて検討しています。
会長（箕口委員）	日本中が同じ問題を抱えているなかで全国どこでも様々な取組をされていると思います。それぞれの立場で色々な情報を集めていただいて、それを共有しながら阿賀町にうまくあてはまるものがあればそれを生かしていくというようなかたちで進めてくださっていると思います。いずれにしても生まれてくる子供が多くなるようにということは、生産年齢の方が住みよいまちづくりということで、先ほど申し上げましたが8つの基本目標が複雑に絡み合っていて、例えば産業を豊かにするといったようなことが人口を増やしていくということに繋がっていくはずですので、そういった意味では8つの基本目標をバランスよく達成していくというのが重要なんだろうと思います。それが持続可能に繋がっていくんだというふうに考えます。
原委員	町長も人口減少が最重要課題ということをおっしゃっていましたが、日本国内の人口自体が減少傾向にあって、国の方針の通りくらいだと生ぬるい。もっと踏み込んだ方針を出さないと人口減少問題は解決しないのではないかと思います。例えば高校生まで医療費の無料化とか一部負担だった妊産婦の医療費を全額助成は評価できると思うんですけども、例えば町は出産祝い金などを出していますか。
事務局	出産祝い金につきましては、国の施策で行っています。町の方では国の方でそのように出産期に出産祝い金を贈るということになりますので、1歳の誕生日や小学校の入学などに対してそれぞれの節目でお祝い金を支給するかたちに令和

事務局	4年度から変更しています。それまでは町でも出産お祝い金として1人当たり10万円送っていましたが、令和4年度から節目ごとにお祝い金を支給する制度に変更して実施しております。
原委員	ちょっと前まで100歳の方に100万円をお祝い金として出していましたけれども、それに比べてお子さんに対する補助がちょっと少ないのかなという気がするんですけども、若い人にたくさん使った方がいいんじゃないかと私個人的な意見です。
会長（箕口委員）	国、県、市町村というところで、重複しないように福祉を充実していくというところはものすごく良く分かる議論ではありますけれども、院長からお話がありましたように、重点的なものについては重複してもいいんじゃないかというところでは確かにあると思いますので議論を進めていただければと思います。
増川委員	「地域の里山保全活動」について教えていただきたいのですが、9月17日に東京国際フォーラムで移住イベントがありました。その時に栃堀集落にある新沼の環境保全に神奈川県から年2回程度きていただいている方が、阿賀町で保全活動に参加して生計が成り立つのであれば移住を考えているという相談がありました。この里山保全活動がどのような活動をしているのか教えてください。
事務局	<p>山林を所有している主に生産森林組合の活動になっております。年に数回山の下刈りや間伐などを行う事業です。山の所有者ということでやっている事業でありまして、お手伝いいただける方は今のところあまり来ていただけていない状況となっています。これは年間を通じて行っている事業ではなくて、春先1回、秋に5回など、そういったレベルで下刈りなどを行っている事業になります。</p> <p>移住希望者がイベントに来ていたという話は担当課から聞いていますが、町としてはマッチングがうまくいかない。林業に携わりたい人を行政だけではなくて町全体としてどう受け入れるかというところがこれから作っていかねばならない。林業に携わる担い手が少ない一方で、受け入れるところもそう多いわけではないですし、林業は農業以上に特殊な施業が必要なので、その辺がどの程度やっていただけるのか、受け入れの部分を行政として考えていかねばならないというところの話もしているところであります。この事業についてもそうした部分も狙ってやっていると思いますが、実際にはなかなか進まない現状があると思います。</p>
会長 （箕口委員）	林業はもう死語になりつつある「3K」の職場というふうに言われていて、私の専門は「森林学」ですので、今の話しをし出すとすごく長くなるのですが、いずれにしても森づくりはとても大切で、SDGsの目標にもものすごくあっていると

会長（箕口委員）	<p>ということで、興味を持ってくれる若者がたくさんおりますけれども、現実問題として「３Ｋ」の問題もあるのですが、いかにマッチングをするのか、足りない部分を地域で何かサポートできるものがあるのかということはこれから議論が必要ですし、そのやり方によっては、阿賀町は素材としては良いものがたくさんありますのでそれを活かすことが可能だと私は信じております。</p>
小林委員	<p>「ペレットストーブの購入」に対する申請がなかったということですが、今はペレットストーブだけではなく、キッチンカーでペレットを阿賀町で購入し活用したストーブやピザ釜などを展開されているキッチンカーも数多くあります。阿賀町のなかでも飲食店やこれから商売で何かを売るとかそういう時に活用したいと希望している方など活用に対する補助があれば挑戦しようかなという人も出てくる可能性があると思うのでご検討いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ペレットにつきましても需要と供給のバランスがとりにくいという問題もありますが、今ご提案いただいた様に、積極的に使うところを増やしていくという部分も必要であるため今後検討させていただきます。</p>
齋藤望委員	<p>ペレットの件ですが、導入当時は灯油よりも安いということでペレットストーブを購入した人がいましたが、実際に使用してみると、同じ燃料代で使用してみるとペレットストーブの方が寒いという意見で、結局補助をもらって買ったストーブも１年で使わなくなったという話を聞いています。問題は燃料代が高いところ。そこに補助があればもう少し普及率が上がるのかなと前々から思っていました。</p>
事務局	<p>町内のペレットの需要はほとんどが公共施設で、年間使用量はおおよそ５００ｔから６００ｔ程度。採算ベースでは１，０００ｔ程度必要であると聞いています。阿賀町の場合だとキロ５５円程度、山形のあたりだとキロ３５円程度で売っているところもあるそうです。町内でサイクルを回すためには、安いものを他から持ってくればいいというものではなく、使う人を増やしていかなければサイクルが成り立っていかない部分もあるので今後お話をさせていただきたいと思います。</p>
清田委員	<p>「資源ごみのリサイクル」の単位についてなのですが、年に何トン出ているかという指標になっているかと思うのですが、人口が減少しているなかで、資源ごみのリサイクルを頑張って増やしていくというのはつじつまが合わないのではないのでしょうか。これは１人当たりのリサイクル量にした方が良いのではないかと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいたとおり、数値目標として実情と合わないような数値目標がな</p>

事務局	かには見受けられますので、今後そういった数値目標の見直しというものも第2回以降の審議会でやりたいと思いますのでよろしくお願いします。
会長 (箕口委員)	今のご指摘はすごく大切なところで、絶対数でやったら絶対数がどんどん少なくなっていくって、分子の方が少なくなっていくって数値目標がとんでもないことになってしまうというようなことがありますので、相対的な数値にしなければならぬ部分はたくさんあるかと思いますので詳細をご検討いただきたいと思います。
齋藤真由美委員	「文化祭行事の来場者数」ですが、これが目標値に対して実績が約1/3と来場者数がすごく少ない。私も今までは見る側だったのですが、今年は出展しようと思っているのですが、たくさんの人に見ていただきたいという作った側の思いがあります。この数値というのは、事務局は何が原因と考えているのか。今の会場は旧鹿瀬中学校ですよね。私は三川なのですが、あそこまでは行ってられないという声があります。場所がないと言われればそれまでなのですが、意見を言わせてもらって、文化祭の開催日は4日間あると思うのですが、私が子供の頃は今の阿賀黎明中学校の体育館に歌い手が来たり、色んな行事が行われていてとにかく人がものすごくあふれるほど集まっていた覚えがあるのですが、今は中学校なので4日間借りることはまず無理だと思いますが、たとえ土日の2日間にしたとしても旧鹿瀬中学校でやるより人が来るように思うのですが、事務局はどう思われているのか意見を聞かせてください。
事務局	何で人が来ないというところについては、おそらくマンネリ化しているというところもあり、ある程度周知はしているのですが、なかなか町民の皆さんに来ていただけない状況というのは今言われるように会場の問題もあるかと思っています。それに対して今後どうするかというのは明言できないところではありますが、検討する必要はありますし、展示する数もご承知のとおりかなりの数がありますので、阿賀津川中学校の体育館であればスペース的には確実に取れるとは思いますが、日程の問題、学校と競合する部分もあると思います。それぞれの地域で分散させるという方法もひとつの手かなと思いますので、その辺も検討する余地はあると思いますので所管課の方にお話しをさせていただきたいと思います。
齋藤真由美委員	本来なら文化祭行事を行うなら文化福社会館が建物としても名目としてもぴったりののですが、ただ展示するような場所がありませんので、今年の文化祭は間に合わないと思いますが、考えたほうが良いと思いますのでよろしくお願いします。

西田委員	<p>「産官学連携大学数」ですが、計画策定時から連携大学数が3校と変わらないのですが、1点目は同じ大学がそのままスライドしているという理解でよろしいでしょうか。2点目がこの数字を3校から4、5校にするためにどのような大学にどのようなアプローチをしたのでしょうか。3点目は大学生が来てどのような効果を狙って事業を行っているのかお尋ねします。</p>
事務局	<p>大学は同様です。Wホームを中心に行っている新潟大学と新潟青陵大学、大正大学の3校と連携してやっています。令和元年度までは盛り上がっていましたが、コロナによりここ2年程度活動が縮小しているが実情であります。西田さんがおっしゃるように、どういったところのアプローチというところは、新潟大学のWホームの学生とそれぞれの地域が連携をしてイベントを行うことを主として行っていましたし、青陵大学についても高齢化率が全権で一番高いこちらの町に来て福祉の勉強をしたり授業の一環としてそれぞれの分野において地域で様々な活動している状況であります。今後につきましてもそれを広げていくような形でということになるかと思ひますし、今後どのようなアプローチにということに繋がっていくんですが、町としてコロナで社会が変わるなかで今後どういうふうに進めていくかということところを大きく変革しているところもあるのでその辺も踏まえながら今後に対応していきたいと思ひます。それぞれの大学だったり学校も積極的に連携事業を進めているというお話も聞いているので、皆さんにご相談もしながら進めていきたいと考えています。</p>
西田委員	<p>地域の課題解決や地方創生を題材・テーマとした大学も純粋に増えてきていると思ひます。大学もフィールドを求めているんじゃないかなと感じており、可能性はまだあると思ひますので積極的に取り組んでいければいいのかなと思ひました。</p>
会長（箕口委員）	<p>今のお話はまさに西田さんの力が大切だと思いますのでマッチングをぜひ進めていただければと思ひます。指標として「大学数」にしてしまうのはもったいないというふうに感じます。何をやっているかというまとまりを指標にした方がよいのではないかなと思ひます。学生はいろんな目標をもっていろんなこと活動しにきているので、そのまとまりごとにカウントしたほうが現実的だし実態に即しているのではないかなと思ひますのでご検討ください。</p>
石川委員	<p>「ボートのまち阿賀町」は何年も掲げているテーマだと思いますが、町民の何人の方がボートに乗っているのでしょうか。大半の方があまり乗っていないと思ひます。コロナ禍ということもあって、大会など中止になって「漕艇場利用者数」もかなり減っているが、ボートは川の上で密にならないスポーツなのでコロナは関係ないのではないかなと個人的に考えます。もう少し町民がボートに気軽に触れ</p>

石川委員	る機会を増やす施策はありますか。
事務局	<p>阿賀町のボートについては、阿賀黎明高等学校のボート部がコアになっていたという部分があります。阿賀野川レガッタや町民レガッタがあり、町民の方にもボートをしていただいておりますが、この2～3年間イベントがほとんどできないなかで今に至っているところで、黎明高等学校の学生数も減少しているのでどうしてもボートをする人が減ってしまったというのが現状だと思います。町で進めている施策のひとつに、高校、大学、社会人などを対象に合宿の誘致を積極的に行っています。国道のバイパスができてご覧いただく機会がなかなかなくなりましたが、今年度も6～7つぐらいの団体が合宿をしているので、そうしたところも含めて、気軽にボートに触れる機会を提供しながら底辺の拡大を図っていく事も必要かと思っておりますので、考えていきたいと思っております。</p>
会長（箕口委員）	<p>ボートは阿賀町の財産ですよね。私の息子が新潟市内の高校でボート部をしていまして、大会では必ず阿賀町の漕艇場を訪れていたのですが、彼らの記憶のなかでは、阿賀町はとても素敵な町だという印象を持っていました。そういったO・B・O・Gが県内外にたくさんいる、そういう子どもたちが阿賀町の応援団になってくれるはずですよ。そういう繋がりを探り当てて利用するといいいんじゃないかなとアイデアとして思いました。</p>
原田委員	<p>林道八木山小出線は県が事業主体なので説明させていただきます。「林道開設延長」の達成状況が0mで×ですが、令和4年度の開設工事については、令和5年度に繰り越して工事を実施してきました。令和5年度分についても発注済みで現在も工事を実施中であります。今年度中には工事が完成して林道八木山小出線については全線開通の予定となっておりますので来年度は目標達成となると思いますのでお話しさせていただきました。</p> <p>当該林道の開設が終わった後の林道新規開設路線の予定がありませんので、今後の林道整備についてこういった目標を立てていくのか良く検討していただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>林道八木山小出線については県の工事によって今年度中に全線開通ということとありがとうございます。林道の新規路線の開拓、林道整備計画になるかと思うんですが、町で進めているバイオマスを活用した、森林を活用した事業の展開を進めることとしていいしますので、その計画にあわせて新たな林道・作業道の整備計画を進めてまいりたいと考えています。</p>
小林委員	<p>「観光入込客数」は、どの様な数字を集めてこのような数字となったのか教えてくださいたいと思っております。観光施設だけなのか。観光に携わる部分はどこまで</p>

小林委員	観光としているのか教えていただきたいと思います。
事務局	県の観光動態調査に基づいて算定しておりまして、主に観光施設や自然公園などの入込客数を集計した統計データになります。年度単位ではなく年単位で集計しています。
小林委員	観光施設だけなのでしょう。飲食店や山や川などへ訪れた方はカウントされないのでしょうか。大自然に訪れただけでも観光だと思っています。おいしいものがたくさんあって、情報発信して、それをわざわざ食べにくる。コロナの時でもたくさんの方が訪れています。そういった方というのは、町としては観光としてみなしていないのか、それとも観光の一部なんですとカウントしているのか。また観光施設のなかでも温泉施設もたくさんありますが、町内の温泉施設を利用している人もカウントしているのかその辺を教えてください。
事務局	宿泊施設や観光施設に何人入っているか具体的に数値を上げて県に報告している状況であります。山や川などへ訪れた方はカウントされていないのではないかと考えます。指標そのものの取り扱いについては、今後の検討材料にさせていただきます。
小林委員	飲食店も阿賀町の観光パンフレットに載っています。そういったお店も是非観光としてカウントしていただけたら嬉しいです。よろしくお願いします。
会長（箕口委員）	観光については小林さんも色々な仕掛けをされていますので、是非小林さんも加わってどういった指標にしたらいいか検討していただけたら良いと思います。
西田委員	高齢化によって農業の担い手があと5年もすると集落が今まで委託で行ってきた部分がかかなり苦しくなってくるというお話を聞いてます。そのなかで、集落の出身者でない方が就農して田んぼを継いでいく事に対する取り組みを行う予定はありますか。
事務局	県事業のなかで、新規就農者に対して150万円3年の資金支援はなされています。町内で助成を受けている人も何人かいると聞いています。そういった方もこの指標に組み込めば数値は上がると考えます。
西田委員	知らない人に田んぼを譲るというようなマッチング支援等は行っていますか。
齋藤望委員	地域おこし協力隊員として3年間の任期は終わったが、広沢で賃貸住宅を借りて就農を頑張っている新規就農者はいます。

事務局	町としては地域おこし協力隊を卒業した方に対して引き続き農家との方との繋ぎ役として支援しています。協力隊以外で新規就農を希望する方についても農林課に相談いただければ支援しています。今年度の事業としては、就農したいという方を受け入れて、いきなり就農ではなくて、お試し体験的な事業も行っています。
齋藤望委員	農機具等を買って100万円まで補助をもらえるといった制度があると聞いたのですが、その補助金はどこから出るのでしょうか。
増川委員	私も地域おこし協力隊を経て農家民宿を開業したという経験がありますが、恐らく協力隊事業のなかで新規で町で事業を起こすときに、上限100万円まで経費などを補助していただける制度のことだと思います。
齋藤望委員	「酒米・加工用米の生産量維持」ですが、目標値にだんだん近づいたなかで3年目に数値が急激に下がった理由をお聞きしたいのですが。
事務局	コロナで飲み会の自粛などで日本酒の消費が低迷し、原料の酒米の需要も急減したためこうした状況になったと理解しています。今年度は7,000程度まで回復する見込みです。
石川委員	基本目標5の全ての項目を見た限り、介護される側中心の項目が多いと思います。介護する側の心のケア等の項目も増やしていただきたいと思います。それをしないと介護する人が阿賀町から離れば施設に入所できる等といった選択肢が出てきます。それは阿賀町から出ていくといった理由になって人口減少に繋がっていくと思うのでしっかりと介護する側のケアにも力を入れていただきたいと思います。
齋藤真由美委員	民生委員としての意見なのですが、達成状況を見ると充実しているように見えますが、その裏で介護施設の会議の時に介護する職員が足りないという課題が出ます。介護する人も高齢でお願いしてやっとしていただいている状況。人手不足だと阿賀町で住んでいられないと不安に思う人もでてくると思います。たとえ数値目標を達成していても大きな不安材料があるという実態を皆さんに知っていただきたいと思います。
事務局	介護する側をどうしていくかという部分についてはこの中に項目を入れてよく見ていく必要があると感じたので、次回以降含めていきたいと思います。介護する側の数は確かに少ない。きりん荘の職員を募集してもなかなか応募がこない状況があります。他の介護施設も大変であると思います。阿賀町は人口が減少し

事務局	<p>ているなかで高齢者の数そのものも減っているのです、昔ほど特別養護老人ホームに入りにくい、待機者が極端に減ってきているという実情があると聞いています。今後それをどの様に分析していくかということになっていく。高齢者の数が、高齢化率が高いから増えていくということではなく、全体の絶対数が減っていくので、その辺のバランスがどうなっていくのかところも考えなければならぬ。それに応じて必要な介護する側の人があるのかというところも、今までとは異なる議論になっているというところを皆さんにご理解いただいて今後提示する数字をよく見ていただきたいと思います。</p>
清田委員	<p>元気なお年寄りも増えているように思います。「老人クラブ加入率」の達成状況としては×ですが、元気なお年寄りが増えていて、まだ老人クラブに入らないという方も増えているのではないかと思います。元気なお年寄り達が楽しく集えるような、孤立しない活動できる場なども勘案するといえますか、目を向けてみて取り組んでみてはどうかと思います。公民館事業とも連携して、若者とも一緒に活動できるように検討していただきたい。</p>
事務局	<p>健康寿命というところが強く言われているので、いかに体を動かしていただくか、頭を使っていただくかについては元気な時からやっていただく必要があると考えているので、数値化できるものについては検討させていただきます。</p>
会長(箕口委員)	<p>「人生の楽園」という番組が好きで、若者だけ町に集めるのではなくて、リタイアした元気な老人がたくさんいる町というのもひとつ売りになるのかなと今の話を聞いて思いましたのでご検討をお願いします。</p>
原委員	<p>令和2年国勢調査で阿賀町の高齢者の人口が10%減少したが、問題は15歳以上64歳未満の人口が33%減、3分の2になってしまったんですね。高齢者を介護するマンパワーが足りないという状況が起きてくるわけなんですね。これは何とかしなければならない問題なんですけれども、阿賀町は施設が非常に揃っていて、特老2件、老健1件、小規模多機能が3件、これだけ揃っている地域は他にないぐらいなんです。特老は町民しか入所できないんですけれども、老健は広域で入所でき、しんあい園は町外の人でも5%入所しているんです。これからは町外から高齢者を受け入れることによって阿賀町が持っている施設やシステムを町外に介護を輸出するぐらいの気持ちで体制を整える。働く人も入居者も町外から呼び込むという考え方も大切であると思います。</p>
事務局	<p>福祉の施策については、委員の皆さんからいただいたご意見を、トータルで新たに指数そのものが変わってきているなかで、そういったところを盛り込んで分析する必要がかなりあると思います。次期計画策定に向けて所管課には今から準</p>

事務局	備するように話をしておきたいと思います。
原田委員	<p>「河川の除草面積」は計画策定時点の310,000㎡を基準にして年々減少しているので達成状況は×となっています。これは県が阿賀町に委託をして実施している箇所がほとんどだと思うんですけども、河川除草については労務費や燃料費が高騰しているので、除草の面積当たり単価が上がっていることと予算が増えていないのが原因であると考えます。これは阿賀町に限らず全県的に同様の傾向にあります。目標値は河川除草の全面積を示していると思いますが、この目標値だと必ず達成状況が×となってしまうため、少し考え方を变えて、どうしてもやらなければならない優先順位の高い場所、例えば水防上重要な箇所や観光面で必要な場所を着実にしていく、それに対して評価していく方が良いのではないかと思うので検討いただきたい。</p>
事務局	<p>予算という係数によってこの様な達成状況の推移になっていくというお話を伺って恐らくそうなんだろうと考えました。この指数をどうしていくかということを検討していく必要があると感じました。町道・林道の除草もあるのでどのような数値を使っていくかということも踏まえて検討させていただきたいと思います。</p>
猪俣委員	<p>数値目標を決めて社会情勢やコロナ禍の影響等によって数値目標の達成が難しいことになったり、数値自体の評価が難しいということも出てくるかと思いますが、それぞれで要素はあると思いますので、今後見直しする際にご検討いただきたいと思います。</p> <p>総合計画は最上位の計画ということで定められているのであれば、目標を達成すべく動いていくものであると考えています。そのなかで「道路改良率」については国土強靱化や様々な要素のなかで着実に社会資本整備を進めていくなかで、あと1年半という期間のなかで、今年度の発注計画を見ても目標達成は厳しいのではないかと感じています。目標値を定めている限りは達成を目指して進めていくと理解しているなかで、達成できない状況というのは改善の余地があるのではないかと考えますがご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>道路改良は狭隘で危険な箇所などを優先して実施しております。家屋などがかかっていたりすると、すぐに事業が進められない状況になりまして、難しい状況ではありますが、緊急車両や自家用車がすれ違いできるような環境を構築するべく道路改良は随時進めております。社会資本整備事業や道整備交付金、緊急自然災害防止対策事業債など活用しながら安全な道路改良、維持に努めております。できる限り目標値を達成できるような形で進めていければと考えております。</p>

猪俣委員	<p>数値目標を定めた根拠はあるはずなので、達成不可能な数値ではないと思うので、目標達成のために施策を進めていただきたいと思います。</p> <p>道路改良がなぜ必要かという、人口減少社会において1人が運べる物流の量を増やしていかなければならないんですね。そういったときの道路が狭かったり悪かったりするとその地域経済が貧弱になります。高齢者の運転が多くなっているなかでこういったところが滞っていると交通事故が増えたりします。町の建設業だけではなく、地域の価値に繋がることなので、ぜひ興味を持っていただきたいと思います、発言させていただきました。</p>
齋藤望委員	<p>数値目標の「職員時間外手当の削減」ですが、消防は削減できないと部分だと思っています。どうしても必要なときは命を助けなければならぬので。削減すべきところと外すべきところは分けていただきたいと思いますというのが個人的な希望です。</p>
事務局	<p>その部分については当然だと思いますし、ここの数字がかなり大きくなっている部分については昨年度だと災害であるとか鳥インフルエンザで阿賀町や胎内市、村上市など下越管内で起こったものについては動員がかかるのでどうしてもこのような数値になってしまいます。もうひとつ自然増としては、DX化に対応する職員の減少が現実にあって、その中でDX化、職員の事務効率を上げてというところの話になっているのですが、今ちょうど過渡期にあってそれそのものが負担になっているということも実際にあって、その辺もひとつ原因になっていると思っておりますので内容をよく精査しながら考えてまいりますし、消防についてはどうしても必須なものになっているので、その件については問題ないと考えています。</p>
西田委員	<p>「起業支援件数」のことですが、教育分野で地域おこし協力隊が何人かいますが、任期中に法人を立てたいという場合に教員住宅などに住んでいると、そこで会社登記が出来ないと思うんですけれども、そういった企業が登記できるようなサービスが三条市などで行っています。そういったサービスがあれば、登記する場所があれば起業するといった候補者はそれなりにいると思いますがどう思いますか。</p>
事務局	<p>お話をさせていただくなかで考えていきたいと思っています。起業支援は町の施策のひとつとして定住促進や少子化対策、仕事をする場の創出に繋がっていくので勉強させていただきます。</p>
田中委員	<p>起業支援ということでお話がありましたけれども、我々銀行の経営理念は地域社会の発展に貢献することですのでございますから、特に銀行なのでファイナンスの部</p>

田中委員	<p>分で起業される方に制度や補助金など紹介させていただき皆さんのお役にたきたいと思っております。</p> <p>D X化について、人口減少は全国的な流れで止められない。人口減少社会のなかでどのように生活したり企業活動をしていくのかは、1人あたりの生産性を向上していくしかないということでD X化を進めています。銀行もD X化で職員がどんどん減っていき、職員が減少しているなかで業務をこなすためにD X化を進めていますが、阿賀町と同じで産みの苦しみを味わっているところです。このなかで我々がいろいろと試してみて阿賀町や企業にも提案していきたいと考えています。</p> <p>また、町の大切な資源を扱う林業事業体は3～4社おり、従業員も10名程度。林業を支える方の事業承継や跡継ぎ、若い方を雇用していく仕組みづくりが非常に大切となっていますので、我々も関わっていききたいと考えています。</p>
横山委員	<p>行政におかれましては、2025年にシステムが全部刷新されるということで、24年～25年にかけて全国的に業務量が多くなることが想定されています。同時に、問い合わせが非常に多いのは、D XやA Iを活用してどれだけホワイトカラーの、本来コンピュータに任せられるような単純作業をいかに人間から外して、人間はクリエイティブなものだけに特化するというようなところが民間、行政を含めて求められています。それに併せて、50代、60代になっても新しいことを覚えていかなければならない時代になっています。阿賀町は高齢化率の高い地域ですが、社会が変わっていてもシステムが使えないと、デジタルの恩恵にあずかりにくいという問題が出てきます。それをどうするかという課題を地域からご相談いただいています。今後はいかに省力化していくか、人を使わないで物事を進めていくかというところを考えて検討していただけると良いのではないかと思います。</p>
3)地方創生関連 交付金事業の 効果検証につ いて	<p>3)地方創生関連交付金事業の効果検証につきまして事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局より資料4に基づき説明)</p>
伊藤委員	<p>阿賀町からたくさんの支援をいただき、また、地域の方に協力していただいて、地域と連携した様々な探究活動が実現しております。令和2年度からはコミュニティスクールを実施しておりますが、高校では県内初の取組というなかで、全国的に見ても地域との連携活動は進んでいる体制がつくられているものと思っております。これは地域の方の協力があったものなので、感謝申し上げます。まだまだコミュニケーション不足の部分もあると思いますので、本校としても今後第2のステップとして地域の方々としっかりと情報を共有しながら進めていき</p>

伊藤委員	<p>たいと思っておりますので、今後ご協力をお願いしたいと思います。阿賀町はボートの町ということで、黎明高校を中心に活性化を図っているということでしたが、今部員も減っているなかでのボート部ですが、実は維持費が結構かかります。生徒が川に出て練習をするには、教員がボート免許を取得してボートを運転しないと出来ません。その為には1人あたり10万円程度の経費がかかるんですけども、個人の資格にあたるということで公費では出せません。今は過去にいただいたお金を使って顧問の方に免許を取得していましたが、そのお金も尽きてしまったので、今後それをどうするのが課題です。ボート部は県内で3校しかない状況で、遠征費がかかり全校生徒が少なくPTAからの補助も限られており、それもかなり負担になっています。今後ボート部が存続していくためには、町からの支援の他にOB方からのご協力がないと厳しい面もありますが、学校として出来ることをやっていきたいと考えています。</p>
4)総合計画の見直しについて	<p>4)総合計画の見直しにつきまして事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局より資料5～資料6に基づき説明)</p>
伊藤委員	<p>5カ年計画のなかで社会情勢が変化していくので、3年目で変更するのは非常にいいことだと思います。数値目標ですが、すでに達成した数値目標はずっと達成したままで変化しないでもったいないなと思います。達成したら次のステップに進むべきで、いくつかそうした目標があると思うので、そういったものは早い段階で次のステップに進むべきだと思います。数値だけではなく内容についても検討いただきたいと思います。</p>
事務局	<p>昨年の審議会でのご意見を踏まえ、事務局では令和7年度からの第3次総合計画を前倒すことも検討しましたが、他の計画とリンクしていることや現在進行形の施策もあるため、今回は改訂ということでご審議をお願いした状況であります。そういったことも踏まえたなかで、今変わっていることはきちんと計画に載せなければならない。令和7年度からの新しい計画に向けた、次に繋がられるような数字の見直しをしていこうと考えておりますので、今日頂いたご意見を踏まえて、基準の見直しもしていきながら新しい計画策定に繋げていけるようにしていきたいと考えておりますのでご理解をお願いしたいと思います。</p>
5)その他 (一般公開について) 事務局	<p>5)その他につきまして事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>先般の議会で、是非この審議会を一般の方にも聞けるような状態をつくっていただけないかという話がありました。審議会そのものが非公開にしているわけ</p>

事務局	<p>ではないため、積極的に周知をさせていただき、お聞きになりたい町民がいれば受け入れていきたいと考えています。次回からそのようにさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長（箕口委員）	<p>この審議会は公開ということでアナウンスをするということですが、皆さんからご意見はございますでしょうか。すごく良い議論をしているので、是非皆さんから参加をしていただければよいと思いますし、個人的には来ていただいた方からご意見をいただく場があっても良いと思います。そういったことも含めて、より審議会が活性化するという意味では歓迎すべきことだろうと理解を示しています。</p> <p>（意見なしの声あり）</p>
事務局	<p>慎重なご審議、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。審議会では本当に色々なご意見をいただいて、事務局として次回の会議、また新たな計画を策定するなかでも一生懸命やっていかなければならないと思うところがあります。いただいたご意見を持ち帰って検討するなかでできるもの、できないものが出てくるかと思いますので、その辺も良くご説明をしながら修正すべき点は修正しながら進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
5.閉会 会長（箕口委員）	<p>それでは以上をもちまして審議会を終了させていただきます。ご協力をいただきましてありがとうございました。</p>